

## 「第3次田辺市男女共同参画プラン」策定に向けて検討すべき事項に係るご意見

### 重要だと思う施策

(今後、田辺市の男女共同参画において、重要となり得る施策や取組をご記入ください。)

○まず男女共同参画に向けた意識改革が必要だと考える。学校教育はもちろんであるが、生涯学習の場を通して男女参画がどうして重要なのか、また現在の日本、和歌山県、田辺市が世界の状況にどれほど遅れているのかを、公民館等を通して学ぶ必要がある。それと同時に、すべての社会活動において女性が十分に活躍できるよう環境を整えることも重要である。具体的には、保育園や介護施設の充実、賃金の平等、昇進や昇格などが考えられる。

○1.男女共同参画の重要性を広く理解するために、学校や地域イベントでの講演やワークショップを実施することが考えられます。性別に関する偏見や固定観念を払拭し、平等な社会の実現に向けた意識改革の促進。

2.女性が職場で活躍しやすい環境を整えることが重要です。育児や介護との両立支援策、キャリアアップのためのトレーニングの提供などが含まれます。また、男女平等な採用プロセスや評価制の確立も重要。

3.家庭と仕事の両立を支援するために、充実した保育施設や介護サービスの提供が必要です。これによって、女性が働きながら家庭の責任を果たしやすくなり、男女ともに活躍できる環境が整います。

4.男女共同参画を促進するための具体的な施策や目標を策定し、その実行を徹底します。ポリシーの透明性や評価体制を整え、実績を確認しながら改善を行うことが重要です。

5.田辺市の男女共同参画の条例を作成する事。

○市民一人一人が自ら考え、行動するために主体的に考えるめやすとなること、一人一人が自立すること。そしてやりたいことを自由に選択して決定できること。苦手分野は得意分野の人にまかせること。ノウハウを学び教えあうこと、働きたい人に働く場を、子育てを選択しても介護が必要になってもその人なりの人生がおくれること、一人になりたいみんなと集まりたい自由には責任が伴います。それだけの力を学びつけることダイバーシティ&インクルージョンの世界、広い視野を持つこと。

○※外国人観光客の多さをみてもわかるように国際社会への対応や理解を深め田辺から多くの“国際人”をだしていただけるようにしたい。

※男女平等視点での教育環境をもっとすすめる（家庭教育、講座、生涯学習等）

→子どものうちから男女共同参画の理解を！

※防災一市民1人1人が防災意識をもち誰もが不安にならず安心して生活できるよう男

女共同参画視点で取り組んでいることを情報共有を（市民に）もっとしてほしい。

○・DV

夫婦の対話の機会(アンケートなど)

- ・男女共同参画

夫婦共に、労働時間と子育て時間の現状の明確化

○国や県の直近の基本計画でも取り上げている「性的指向や自認を理由として困難な状況に置かれている人々への支援」は、これまで田辺市のプランに取り挙げられてない。このLGBTQの問題は、10年前の社会状況と大きく変わり、多様性を掲げるジェンダー平等の理念の大きな部分を占めるようになってきていると思う。

また、この第3次基本計画の計画期間が10年では長すぎ、時代はどんどん変化しているので、このような新たな課題にも敏感に対応していく必要があると考える。国や県の基本計画は、5年ごと更新であるから現在第5次となっている。このままいくと田辺市は、取り残されていく。

○パートナーシップ制度、ジェンダー平等、男女共同参画推進条例、多様性の推進、子育て支援、介護支援。

○全体にバランス良く施策を進められているとは思いますが、教育や職業分野でのジェンダー平等の推進はますます重要であると考えます。

若い人ほど男女の役割分担に関して柔軟な考えを持ち固定観念にとらわれない傾向にあるので、子どもの頃から男女共同参画の意識を持てるよう発達段階に応じた教育をしていくことが重要だと思う。高齢の方の意識を変えるのは難しい。

また職業に関し、女性が働きやすくするためには子育て支援や介護の支援を充実させなければならない。保育所や学童保育の充実、一時預かり事業の支援のほか、障害のある子どもや高齢者のお世話をしている人にはレスパイトサービスももっと必要。

○施策:支援を必要とする男女への支援

取組:子育て支援の充実

○田辺市民として安心して住み続ける自分づくり。

**上記の施策や取組が重要だと思う理由**

(上記で記入した施策や取組が重要だと思う理由や背景をご記入ください。)

○市民アンケート調査によると、前回の結果と比較すると「理想」において確かに改善されているが、まだ十分とは言えないし、特に男性に男女共同参画の意識が低い。そして家事、育児、介護、学校行事への参加等男女共同を「理想」とするが40代までの男女で約80%ぐらゐを占めているが、現実では、20%くらいで「理想」と「現実」のギャップが大きい。「理想」を「現実」にするには、男女共に育休や介護休暇をとれたり、女性も昇進して高賃金を得ることができるなどの環境整備が急務だと考える。今しかないでしょう。

○1.社会的な平等の実現：男女共同参画は、男女間の不平等を解消し、社会的な平等を実現するために必要です。男女が平等に機会やアクセスできる社会は、より公正で持続可能な社会を築く。

2.人材の活用：女性は社会で重要な役割を果たす可能性を持っており、その潜在的な能力を活用することで田辺市はより多くの専門知識やスキルを持つ人材を得ることができる。男女共同参画を進めることで市内の労働力を最大限に活用し、地域経済を強化できる。

3.家庭と仕事の両立：男女共同参画は、女性が家庭と仕事を両立させやすい環境を整えることが女性がキャリアを追求しやすくなり、市内の労働力が多様化し、活性化します。

○性別役割分担意識や固定観念のために大切な「自分」の人生を二者択一で悩んでしまっているように思う。自分の生き方を自分で決定する時に育ってきた間に様々な教育や人間関係の中でしんどい思い込みをしていると思う。急に今から生き方を変えろとは言えないが社会の幸福は個人の幸福があつてこそ、愛情をうけた人にしか人に愛情を与えることはできないと思っている。先人たちが築き上げた歴史と文化をうけつぎ次の世代につなぐ橋わたしが必要である。やさしい心でやさしい心を持った人間を作り、田辺市全体があたたまると考えます。

○・DV

対話の重要性は投げかけ、きっかけとして、事後では無く、事前に訴えることがいいと思います。

・男女共同参画

実質、男女共に、時間バランスが可能であるか？否か？となると思います。

○「性的指向や性自認を理由として困難な状況に置かれている人々」の心の傷は深く、特に思春期を迎える頃の葛藤は、大変なものであることを当事者からの話からもよく聞く。政府与党内の反対が根強くあつたが、ようやく今年6月23日に「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」が公布・施行となつた。このことを受けて学校における対応等についても様々な取り組みが国からの通達として出されるようになったが、まだまだ緒に就いたばかりで今後の啓発の必要性が大きいと思う。

○誰もが自分らしく生きやすい社会をめざすためには、家庭、職場においてジェンダー平等が望ましい。

多様性も少しずつ話せるようになってきた背景はあるけれど、自分事として関心を持つまでにはまだなっていないと思う。

そこで、「第3次田辺市男女共同参画プラン」で上記のことを田辺市から積極的に発信、推進していくことが、市民の方の理解につながり、一人一人が大切にされ幸せを実感できるまちづくりに生かされると思う。

子育てや介護は核家族で暮らしている環境の方は1人にかかる負担が大きいので、辛い時に頼れたり、休養してリフレッシュできる支援があるとよいと思う。

○人口減少、少子高齢化が進む中では女性も男性もそれぞれの能力に応じ、また希望に沿って社会参加できなければならない。多様な視点で問題解決、改善を考えていくことが持続可能な社会の実現につながるから。

○少子高齢化に歯止めがかからない中、子育てをしやすい環境作りが不可欠だと思います。中でも、子供の体調の悪い時は、親がそばにいてあげるのが理想ですが、安心して預かってもらえる病児保育を充実することが必要かと思っています。

○近年町内会や子ども会に入会しない家庭が増えている為、地域行事が成り立たないケースが増えている。住みよい社会を維持するために自分の能力を理解し、行動できる「ひと」になってもらうことが大事だと思う。

### 「第3次男女共同参画プラン」で、記載を充実または変更すべきだと思う項目

(充実または変更すべきと思う項目について具体的にご記入ください。複数の項目があってもかまいません。)

○8/23の当日資料について

先日田辺市民総合センターの今後についてのアンケートが郵送され回答送付した件に関して、項目の中に「あなたの性別」・男性・女性・どちらともいえない?だったか、たしか3つの項目がありました。過去いくつかの無作為抽出アンケートありましたがこの様なケースは初めてでした。懇話会の時にも「性の多様化」が言われている現状「男女」が強調される事に少し違和感を感じました。

○やはり、男女共同参画にしぼったプランにする必要があると考える。

基本目標1施策(3)の健康づくり支援は、重要だという事は疑う余地はありません。しか

し、取組内容 6 の市民の健康増進は健康増進課にまかせたらいいのではないのでしょうか。数値目標の施策番号 6 は、男女共同参画プランにあえて入れる必要はないと思います。また取組内容 16 の防災力の向上も重要なことは言うまでもありませんが、数値目標の施策番号 16 の「自主防災組織・・・」は、防災まちづくり課に任せて、むしろ「男女共同参画の視点・・・」の取組みが年間目標 4 で 4 年度末の実施が 0 であることが重大です。施策番号 13「審議会等・・・参画促進」については、3 年度と比較するとあまり変化が見られません。そして、「母子保健・・・会」や「図書館協議会」等は女性まかせが見られます。男女共同で進めていくのがよい結果を生むと考えます。それから数値目標は、どこに設定されているのですか。

○子育て家庭の負担軽減やワークライフバランスの確保を図るために、保育施設や学童保育の拡充、柔軟な勤務形態の推進、育児休業の取得促進など、育児・家庭支援策を強化する。

- ① 伝統的な性別による職業選択の偏りを解消するために、職業情報提供やキャリア教育の充実異なる分野での女性リーダーの登用・育成など、男女の職業選択の多様化を促進する施策
- ② 同じ職務に対する男女間の賃金格差を縮小するために、給与体系の見直しや公平な評価基準の確立キャリアアップに伴う報酬の透明性を高める施策
- ③ 男女共同参画の意識を高めるために、性別に関する教育・研修プログラムを充実させることで、職場や地域社会での理解を深める取り組みを推進
- ④ 女性のリーダーを増やすために、女性の登用・昇進をサポートする制度や研修プログラムを導入し、組織内でのリーダーシップポジションの道を開拓する取り組み

○自分だけが良かったらという世界は成り立ちません。人間は 1 人では生きることができないからです。今までもだれかに助けてもらって生命をつないできました。男女共同参画というが男だからとか女だからという問題ではなく生きとし生けるものすべてがありのままでもいいのです。これからの教育や生き方がもっと人に優しく、すべて認め合うことが大切だと考えます。力（権力）を持った人が特に考えなければいけないことです。そして具体的に（表面的なことではなくて）実行していくことです。必要なことは参画ですから参加でも協力でもなく主体的に動くこと（行動を変えていくこと）だと思います。そしてこの参画プランがそのエールになることを望みます。田辺に暮らして良かったと言う人が 1 人でも増えるために。記載を変更することではないかと思いますがもっとやさしい分かりやすい文面にしてほしいです!!（むずかしいことをむずかしく言うのはかんたんでやさしく言うのはむずかしいですが）

少数意見を大切に。切りすてにしないこと。

どんな意見でも声をあげていいんだよ、安心できる所だよ、充分な話し合いができること、女性視点を入れることで変化。変化することに責任をもつ力をつける。

○家庭の運営と仕事の意識。

映画マイインターンの女性社長の夫は、日本から見るとまだまだ言葉は悪いかもしれませんが、「ヒモ」的に映るよう思えます。そもそも、仕事への価値観と、家庭の運営の価値観に差を感じるからかと考えられると思います。一例として、現在の不況、物価の高騰などを前向きに考えれば、家庭の運営に重きを置くことの方が理想的に見えたりします。市場的にも、煽ることより、応えることを求める人達も、出てきたり、生産も人を必要としなくなったりもそう感じる部分かもしれません。でも、まだ男女、能力の必要性の偏りは、職種によりあるのは、仕方がないと思うので、この偏見が先になくなるのが、まず前提になるのかな？と思います。

○大きな変更となって恐縮ですが、基本目標のところでは「誰もが安全・安心に暮らせる社会づくり」が必要だと思う。すべての施策は、今困難な状況に置かれている人々を支援する事から始まる。その下の施策の項目に①生涯を通じた健康づくり ②男女間の暴力の根絶 ③支援を必要とする男女への支援 に加えて ④性的指向や性自認を理由として困難な状況に置かれている人々への支援 が並ぶのが良いと考える。

○家庭生活での家事、育児の平等、学校等における多様性の理解

○LGBTQの項目。男女というより人権そのものに関わる問題だから。小さなうちからの学びが大切だと考える。当事者は「ずっと自分はおかしな人間だと思っていた。もっと早いうちに自分が何者なのかを知りたかった」というようなことを聞く。

社会全体の理解が欠かせない。宝塚市では性的マイノリティーのリーフレットが一般用だけでなく教職員用のものも作られている。参考になると思う。

○まだ無理かもしれませんが、「男女」という文言を「市民」に置き換える。

## 懇話会について

(懇話会の内容や運営等に関して、ご意見やご要望がございましたらご記入ください。)

○懇話会設置要綱によると、第一条に、「本市における男女共同参画社会の形成の促進に資するため・・・」とあり、平成17年に施行されてから18年が経過していますが、なかなか進んでいないと思われます。また県の第5次基本計画のP54(2)市町村における取組の促進にもありますが、田辺市も男女参画条例を制定して、もって積極的に男女共同参画をすすめることが、懇話会の大きな役割だと考えます。

このような形で、委員の意見を聞く事は、大変いいことだと思います。

○今までの懇話会（10年以上前）よりかなり変化はしてきたように思います。何年やってもいつも新しい情報を懇話会メンバーからいただけます。そしていつも原点にもどって学ぶことができます。今生きていくことにしんどいと少しでも思うこと（不安やひとりぼっち・さみしさ・つらさ）のある人たちに選択肢はたくさんあること、この世の中で生きていんだとメッセージを送り続けたいですね。いつもありがとうございます。

○もう少し時間が欲しい！

みなさんの意見を聞きたいです。

事前にプリントは読み込むようにしておき、みなさんで話し合う時間を作ってもらいたい。グループワークとかでも。

○私が4年前この懇話会に一般公募から入ったのは、田辺市の施策として「男女共同参画条例」が必要だと思ったからです。田辺市は3名の専門職員を配置し、電話相談も行っているにも関わらず、未だに条例に手を付けようとしていない。今や条例は、インフラのようなもので当然の基盤整備であると思う。令和3年に施行された「田辺市人権尊重のまちづくり条例」が策定された経緯では、人権啓発推進懇話会の中からの声で策定委員会を立ち上げて、検討の結果出来上がったと聞きます。このような民主的な方法で条例が策定されるのは、田辺市にとって誇らしいことだと感じます。同様に今回の第3次基本計画が出来上がった後には、是非「田辺市男女共同参画条例」の策定に是非取り組んでいただきたい。

○難しいかも知れないが、委員の中にできるだけ若い人が入れるようにして欲しい。

アンケートの内容、その他に関して問21～23は1としか答えられないような気がする。省いても良い。またボリュームがあり回答が大変なので、もう少し問いを絞った方が良いのではないか。そのうえで最初に「アンケート回答の所要時間はおよそ〇〇分です」と書いてあげるのが親切だと思う。